

○愛知県港湾経済連合会定時総会開催

8月9日、碧南商工会議所において平成19年度愛知県港湾経済連合会定時総会が行われ、平成19年度事業計画案及び名古屋港、三河港、衣浦港などの県内港湾の整備や利用促進についての要望方針が承認されました。

最後に、中部地方整備局佐原副局長による『「中部の元気」を支える港づくり』と題した記念講演会が行われました。その中で、みなとづくりとまちづくりは一体であり、みなとの活性化がまちの活性化につながることを、みなとの活性化のために物流活動の活性化と市民との協働による観光拠点、学習フィールドとしての展開が重要であり、クルーズ船出航時に打ち上げ花火で別れを惜しむ宮城県石巻港、大学と協力して干潟フェスタを行う熊本港等の事例を紹介し、参加者の大きな関心を引きつけました。

○「第7回環境地盤工学シンポジウム」で発表

8月23・24日の両日、福岡大学において、(社)地盤工学会の主催により、「第7回環境地盤工学シンポジウム」が研究者や実務技術者約120名参加のもと開催されました。



発表する 当事務所 赤石計画課長

当事務所からは、セッション2「建設工事に伴う環境負荷・ミティゲーション」において、中山水道航路砂の代替材として期待されるダム砂や水砕スラグの実海域実験結果や、粘土・シルト系浚渫土砂を中性固化剤等により粒状化を試みた実験結果を名古屋港湾空港技術調査事務所との連名でまとめた論文「浚渫土砂の海域環境再生への活用に関する実験的検討」を発表しました。

また、今年の秋頃に、これらの検討結果を応用して、実用化に向けた新たな実海域実験を三河港内にて予定しております。

○真夏の熱戦！清水港VS三河港 野球部練習試合

様々な熱戦が繰り広げられた高校野球が閉幕したばかりの8月25日、高校球児に続けとばかりに、豊川市東上野球場において清水港湾事務所と交流試合を行いました。

同じ中部地方整備局の仲間である清水港チームをホームの三河に迎えての一戦は、厳しい暑さの中、文字通りの大熱戦！三河港が4番松永係長のホームランで先制するも清水港がすぐに同点に追いつく。三河港が3番竹下係長のホームランで再びリードするも、粘る清水港が最終回に同点に追いつき、結果は5対5の引き分けに終わりました。試合後は近くの銭湯でゆっくりと疲れを癒しながらお互いの健闘を称え合うなど、普段あまり顔を合わすことのできない清水港の仲間と野球を通じて親睦を深めることができ、とても有意義な一戦となりました。



清水港&三河港の熱き仲間達



粘る清水港



力投三河港



清水港湾事務所のイメージキャラクター「ベェズ」！詳しくは清水港湾事務所のホームページを見てね！
★<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>★



中部地方整備局 佐原副局長



Mini-WANとは

三河港湾事務所従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 第9回高浜市民レガッタ ○清龍丸一般公開 in 衣浦港
- はずストーンカッブ ○衣浦港安全パトロール ○白龍が蒲郡に寄港
- 国際自動車コンフレックス研究会で佐原副局長が講演
- 愛知県港湾経済連合会定時総会開催
- 「第7回環境地盤工学シンポジウム」で発表
- 真夏の熱戦！清水港VS三河港 野球部練習試合

☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

今年の夏、ウミガメの誕生を目にする機会に恵まれました。

昼に「今日は可能性あり」との連絡を頂き、夜9時過ぎに表浜の現地へ。待っていたのは満天の星空でした。様々な大きさ、色の星々に加え、流れ星も1度。願い事をするまもなく消えてしまいましたが、天空を彩る星空と波の音の共演をしばらく堪能していました。

一方、ウミガメの方は、こちらの思い通りに生まれてくるわけではないので、ひたすら待つのですが、なかなかその気配がありません。子連れでいらしていた家族は夜も遅くなり、断念された方もありました。その時、他の場所で観察していた方から、“出てきそう”という連絡。



場所を異動し待つこと小一時間。窪地の砂が少し動きました。しばらくすると、顔を少しだけ出して、周囲の安全を確認。そのあとは海へ向かってまっしぐら。意外とスピードがあり、後ろ足のキックで力強く前進していきます。のろまな〇〇、という表現はまったくあたりません。波打ち際までたどりつくと、大海原へあっという間に旅立って行きました。小さい命が精一杯生きる姿は神秘的でさえありました。

帰宅したのはAM3:00。忘れ得ない夏の思い出となりました。誘っていただいたNさん、本当にありがとうございました。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.7)



☆CONTENTS☆



★ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。★<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★

○ 第9回高浜市民レガッタ

8月4日、第9回高浜市民レガッタ大会が碧海町の高浜川特設コース（横浜橋～汐留橋間）で行われました。前日は強風が吹き荒れ開催が危ぶまれましたが、この日は晴天に恵まれ絶好のレガッタ日和でした。

この大会の種目は、スイープ種目（オールを1人1本持って漕ぐ）のナックルフォア（ナックル艇に4人漕ぎ＋舵取り1人）で、470mの距離で競います。今大会は、クルー数67、選手423人の参加があり、各クルー優勝を目指して熱戦が繰り広げられました。会場中がかけ声で響き渡り、長さ10m以上もあるナックル艇を5人が力を合わせて操り、470m先のゴールを目指しましたレース後の選手達が、額に汗をかきながらも爽やかな表情が印象的でした。



レースの様子

○清龍丸一般公開 in 衣浦港

8月4日、衣浦港重要港湾指定50周年を記念して、名古屋港湾事務所所属の清龍丸が衣浦港にて一般公開されました。

清龍丸は、平成9年に日本海で発生したナホトカ号の油流出事故の時に大活躍した先代清龍丸の後を引き継ぎ、平成17年4月に建造された国内最大規模の浚渫兼油回収船です。

一般公開当日は夏休み真っ盛り、そして衣浦港には初めての来港ということもあり、清龍丸を一目見ようと公開開始前から長蛇の列ができました。特に小学生や親子連れの見学者がたくさん訪れ、その数は2,000人を超える大盛況ぶりでした。

訪れた方々は広い船内、様々な設備を熱心に見て回り、見学後には清龍丸ストラップが記念品としてプレゼントされました。また、船員さんの制帽をかぶっての記念撮影も好評で、多くの方にちょっとした船員気分を味わっていただけました。



操舵室から外を眺める



公開開始を待つ見学者

○はずストーンカップ

8月5日、東幡豆港（幡豆町）において「はずストーンカップチャレンジレース」が開催されました。1997年に第1回大会が開催され今年で11回目のこの大会は、幡豆町特産品の御影石で作った優勝カップが送られることから、ストーンカップと名付けられた海上でのいかだレース大会で、幡豆町の夏の風物詩となっています。

東幡豆港内に設けられた500～1000mのコースでストーンカップを目指し、純粋に速さを競うエキスパート部門、入門者から中級者で競う一般部門、親子・レディース部門の他、演出に全力を尽くすパフォーマンス部門、主催者が用意したEボート（ビニール製のボート）でいかだレースを体験できる部門もありました。また、各部門に参加したいかだによる100mのトーナメント方式のスプリントレースも開催され、白熱した真剣勝負が繰り広げられました。

栄光のストーンカップを手にしたのは、エキスパート部門が「亀崎潮干丸」、一般部門が「チームDE川東」、親子・レディース部門が「レヴェクラブ」でした。参加した皆様、ギャラリーの皆様、照りつける日差しの中お疲れ様でした。



レースの模様



体験Eボート部門

○衣浦港安全パトロール

8月7日、衣浦港武豊北ふ頭地区航路泊地（－12m）浚渫工事を対象に工事安全パトロールを実施しました。発注者側7名、請負者側4名の計11名が参加し、衣浦港武豊地区で作業中のグラブ浚渫船と空気圧送船を中心にパトロールを行いました。現場での安全対策はもとより、夏季の作業ということもあり熱中症対策も重点的に点検しました。パトロール後には、港湾空港整備・補償課の堀池専門官より「港湾工事における安全の確保について」という題で講話があり、建設業における労働災害状況や管内における最近の事故概要、港湾工事における安全対策について説明を頂きました。

当事務所では、今回、安全パトロールを行った工事も含め、引き続き、無事故・無災害を目指して工事を進めて参ります。



現場をパトロール



○白龍が蒲郡港に寄港



白龍



船内にて説明

ゴミコンテナ

当日集まった約20名の見学者は、乗組員らの説明を受けながら、船内の様子やゴミ回収のデモンストレーションなどを興味深そうに見学されていました。船内のゴミコンテナには、回収した流木や発泡スチロールなど数多くのゴミが収容されていました。船長のお話では、海面に浮かぶゴミの多くが海上で発生したものではなく、陸上で発生したゴミが海に流れ着いているのだそうです。私たちの日常生活での心がけが海をきれいにしていくのだと改めて感じました。



見学者のみなさん

○国際自動車コンプレックス研究会で佐原副局長が講演

8月8日、三河港の利用促進などを考える「国際自動車コンプレックス研究会」（会長：神野信郎東三河懇話会会長）の第26回研究交流会が、関係者120人が参加する中、豊橋商工会議所において盛大に開催されました。その中で、中部地方整備局佐原副局長が「まちづくりとみなと」をテーマに講演し、三河港の特徴を「一流の自動車港湾、二流の公共ふ頭、三流のコンテナ貿易、市民との接点は四流」とした上で、コンテナ貨物の集荷範囲が東三河に限られている上、東三河の貨物も他港に奪われている現状を説明、「自動車輸出入に頼る港でいいのか、現状に満足していないか」と疑問を呈しました。

四流と評した市民との接点については、「解決の薬は市民との協働である。市民応援団が必要。」と自身の経験をふまえ、他地域のユニークな取り組みを紹介しました。豪華客船「飛鳥」の誘致に成功した岩手県大船渡港、妖怪の街として観光都市への変ぼうをとげた山陰の境港等の成功物語に、参加者は熱心に聞き入っていました。



中部地方整備局 佐原副局長

